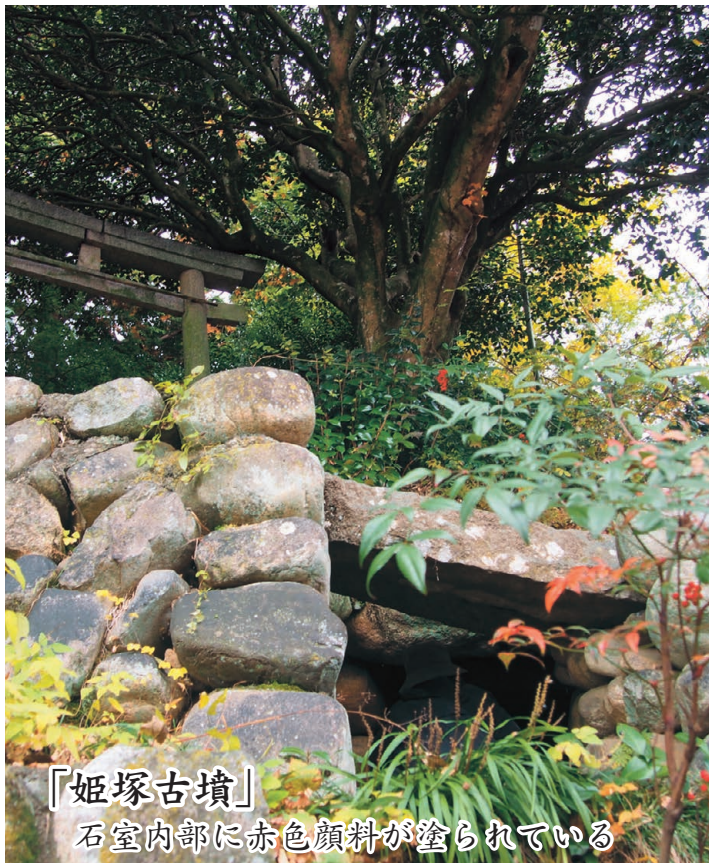




発行所 飯田市松尾公民館
編集人 松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷(株)



「姫塚古墳」 石室内部に赤色顔料が塗られている

「飯田古墳群」国の指定史跡に！

松尾からは 5 カ所の古墳が指定される

天竜川西岸には、520基を越す古墳が残っている。その中から主要な13基を地権者の了解をとり、飯田市教委は「飯田古墳群」とし国史跡とするよう文化庁に申請した。

松尾からは御射山獅子塚古墳(久井区)・姫塚古墳(上溝区)・上溝天神塚古墳(上溝区)・おかん塚古墳(上溝区)・水佐代獅子塚古墳(水城区)の、5カ所が国史跡となった。



まけるな相撲 松尾場所

10月24日から26日にかけて松尾小学校で「まけるな相撲松尾場所」が開催された。



のこったのこった！

24日の開会式では、前沢豪くんと福澤明莉さんによる力強い選手宣誓の後、講師の清水里香先生から「仕切りの時に相手に向かっていく時は恐怖を感じることもあると思うが、その恐怖に打ち勝ち、一歩前に足を出して相手にぶつかる経験は必ず日頃の生活に活かしてくる」とのあいさつがあった。

学年別に行われた大会の中で、26日の午後からは6年生による個人戦が行われた。6年生になると体格差も顕著に表れてくるが、小柄な児童が大柄な児童に頭からぶつかっていき、善戦する取組が見られるなど、熱戦が繰り広げられた。6年生にとっては最後のまけるな相撲ということもあり、自分の取組が終わった後も仲間を大きな声で応援する姿があった。

昨秋も、長野県の各地で新そば祭りが開催された。木曾のそばを食べてみたいと思いい、出かけることにした。伊那の権兵衛トンネルを通り国道19号に出て開田高原を目指した。新地蔵トンネルを抜けると白樺が目立つ高原が広がっていた。目的の「そば処霧しな」に着いたが、平日にもかかわらずバイクツーリングの人たちやバスツアー客で混んでいた▼そばセットを注文して、もりそばを食した。霧しなそばのセットに、開田高原のとうもろこしを使ったコーンのコロツケが案外おいしかった。たいへんなそば好きというわけではないが、たまに食べたくなりドライブがてら出かけて味わうのもいい▼霧しなそば、高遠そば、戸隠そばと信州そばは長野県各地で楽しむことができる。松本にもたくさんあるそば屋さんがあった。でもどこも飯田からは時間がかかり、長野県は山だらけだと当たり前のこと気がつく▼飯田下伊那でもおいしいそばを食べさせてくれるところが増えている。地元そば粉を使い手打ちをしているためか、それぞれに味わいがある。楽しみたいと思う。

特別公開の寺院と若沖を満喫

公民館主催の「錦秋の探勝会」は申し込み開始数時間間で定員一杯になる人気企画となった。

10月31日6時、参加者44人は公民館を出発。ニツクネーム付きで自己紹介をした後、勝野館長が次々に練り出すゲームに興じているうちに京都へ到着した。

まず相国寺では、特別公開中の法堂と方丈、開山堂を拝観。天井に描かれた「蟠龍図」の下で一人一人手を打って龍の鳴き声を確認していた。続いて承天閣美術

秘仏本尊如意輪観世音菩薩を拝み、特別展示の「石山寺と紫式部」展も鑑賞した。

帰りのバスの中では、往路で館長が参加者に課していた川柳作品(14句)が読み上げられ、笑いの渦に包まれた。更にガイドの名調子もあり、探勝会の目的の一つである「親睦を深める」ことが出来、「楽しい」一日旅行となった。

川柳優秀作品

鳴龍も相手多くて返事せず 「あうん」像かみさん吠えて俺だまる 脳のしわ顔よりまさるガイドさん



相国寺庫裏の前で

背番号83 玉ちゃん たあさん

ふれあいひろば

*松尾バレーボール連盟後期大会 10月30日に松尾小学校体育館で開催された。結果は以下のとおり。

- 優勝 清水 代田
準優勝 八幡

*松尾サイエンススクール 11月12日、ミニ体育館で31人が火おこし体験を行った。また、12月10日は40人が星座早見盤を製作。参加者は早見盤を見ながら、「今夜この星を見つけてみる」と楽しみにしている様子だった。



火おこし体験

*鳩ヶ嶺八幡宮紅葉ライトアップ 11月19日、紅葉ライトアップのイベントとして、八幡



水面に映る紅葉

平成 28 年 どんな年でした

- 文化祭「鈴木照雄氏 講演会」プロ野球のスカウト活動、飯田の野球について熱く語る(2月)
人形劇フェスタ、松尾地区公演
各会場特色ある公演(8月)
「松尾地区市民運動会」2年連続雨天中止(10月)
「松尾音楽会」小中学生の合唱・吹奏・人形劇(10月)
松尾小6年生「モデルロケットを飛ばそう!!」(11月)
鳩ヶ嶺八幡宮紅葉ライトアップ(11月)

松尾の人口

Table with population statistics: 男子 6,198人, 女子 6,920人, 計 13,118人, 世帯数 5,015世帯, 11月末現在

講演会 長田徹さん

被災地から学ぶ地域の絆

—あの震災の日、
何が起きていたのか—



講師・長田徹(おさだとおる)さん
宮城県出身。現在は文部科学省に勤務。仙台市で教育指導主事職中に東日本大震災に遭遇した。ライフラインが全て絶たれる中、管内の学校の状況を把握するために瓦礫の町を奔走し、避難所となった学校や被災地の支援にあたった。

後半は東北大地震での被災地の状況と自らの体験を語った。「子供たちは自分たちの家が目の前で流されていくのを、なすすべもなく見つめていた」「低学年の子が不安になるからと6

松尾地区まちづくり委員会・公民館育成部・青少年健全育成会は10月29日、松尾公民館において「今こそ、学校・家庭・地域の絆を深めよう」をテーマに講演会を開催した。
長田さんの東北弁でユーモアを交えながらの自己紹介に続いて、「学習する子の特徴」をテーマに基づいて説明。「低学年では大まかでも夢がある子。高学年になると具体的に将来の目標を言える子が学習面で伸びる」「親や先生以外の大人と日常的に関わりのある子は、自然に大人への尊敬や憧れの念が生まれ、具体的な目標を持てるようになる」と話した。

「地域の子供は地域で育てる」という意味を痛感させられた講演会であった。

年生の子は声を押し殺して泣いた。「津波に流され電柱にしがみついた男性を見つけた子供たちは、一晩中『おんちゃん眠るなよ』と屋上から声をかけ続け、助けられた男性は『暗闇から聞こえる子供の声が我が子の声に聞こえた』と感謝した」など、現場の様子を語った。
避難所生活が長引く中で、何人々の心を支え明るくしたか。それはトイレや新聞を作り、被災者に手を貸し言葉をかけ続けた子供たちだった。長田さんは「地域の人々のつながりが、どんなに大切か。いかに子供の心を育てるか。一見(いっけん)遠回りに見えることが、子供の心を育てる」と地域の絆の大切さを訴えた。



御射山獅子塚古墳を歩く

多様な構造で造られた多様性、飯田型とも言える形態の独自性、の3つの特徴がある」という。
5基が指定された松尾地区は、1500年以上前かから、暮らしやすく文化も高い地域であったと言える。今回は約50人の参加で行われたが、この学習会がこれからも長く続くことを期待したい。

講師の渋谷さんは、「これは、地域の人たちが、残しているという思いがなければ残らないもの。松尾地区では保育園児から史跡を学ぶ活動が行われていますが、他ではまれなこと、素晴らしいと思います」と結んだ。

一同はまず、前方後円墳の御射山獅子塚古墳へ。伊那谷の地形がよくわかる眺めを見ながら、古墳の特徴、時代背景を聞いた。また、そこから見える茶柄山古墳群で馬に関連するものが出土していることに触れ、伊那谷は馬飼が多くいた地域であるとも語った。
続いておかん塚へ移動。渋



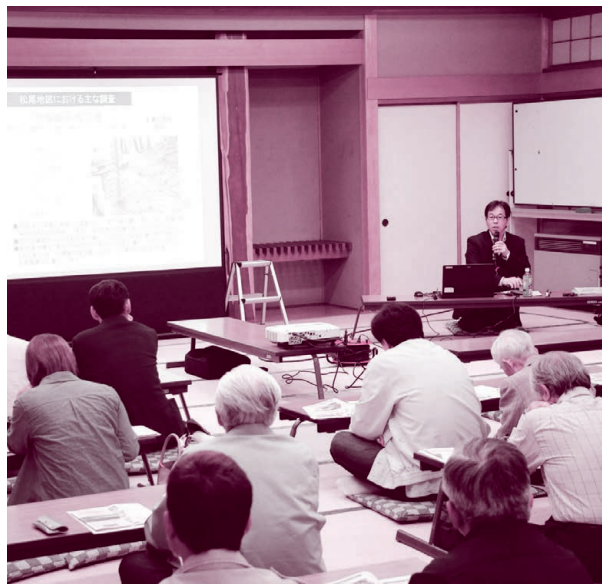
ちゃんと上がりますように

走っていた。拾い終えた片桐礼菜さんは「思ったより高く飛んだ。作ったのがあって楽しかった」と笑顔で話した。

モデルロケットの製作

青少年健全育成会は11月9日、おもしろ科学工房と松尾サイエンスとの共催で、松尾小学校にて出張科学実験教室を開き、6年生にモデルロケットの製作と打ち上げの指導を行った。
授業前、出席した3団体のスタッフ27人に対し、林司小学校長は「子供たちは幸せです。仕事のあるなか、

大勢の方に協力いただき大変感謝します」と話した。授業はおもしろ科学工房代表の三浦宏子さんが講師を務め、6年生の4クラスの間で行い、カレンダーの紙を使ったモデルロケットの製作と、打ち上げまで実施した。
グラウンドでの打ち上げでは、各自発射台から順番に自分のロケットを打ち上げ、歓声を上げながら落下してくるロケットを拾いに



松尾は昔から住みよい土地だった

松尾公民館では、松尾地区について学習し今よりさらに地域への関心を高めるとともに、詳しく地域のことを語れる人を増やそうと松尾地区学習会を企画した。第1回は、「飯田古墳群や松尾の古墳を学ぼう」と題し、10月14日に松尾公民館で開催された。
飯田市教育委員会参事の松下徹さんを講師に迎え、「古墳とはなにか」から始まり、飯田市における古墳の調査研究の歩み、松尾地区における主な調査の様子を、

国史跡「古墳」を巡ってみよう

学習会第2弾

11月13日、第2回松尾地区学習会が行われ、27人が参加した。今回は飯田古墳群が国史跡に指定されたことを受け、松尾公民館と松

尾史学会共催で、指定された松尾の古墳5カ所について、古墳調査に携わった飯田市教育委員会の渋谷恵美子さんを講師に招き、現地を案内を受けながら学習する機会を設けた。
一同はまず、前方後円墳の御射山獅子塚古墳へ。伊那谷の地形がよくわかる眺めを見ながら、古墳の特徴、時代背景を聞いた。また、そこから見える茶柄山古墳群で馬に関連するものが出土していることに触れ、伊那谷は馬飼が多くいた地域であるとも語った。
続いておかん塚へ移動。渋

サンロード八幡

元気と笑顔をお届けします!

～心にひびく音楽を～
今回で4回目を数えるサンロード八幡商店街主催のイベントが「元気と笑顔をお届けします!」をテーマで、10月15日に行われた。
第1部は愛運和美さんによる篠笛の演奏、第2部はしみずさとるさんによるギター演奏とフォークソング、



心にひびくデュエット

このサンロード八幡のイベントには、飯田OIDE長姫高校の生徒も関わり、チラシやポスター、横断幕の作成、地区内へのチラシ配布、当日の司会進行や商品販売など多岐にわたって活躍した。特に高校生と地元商店がタイアップして開催したどら焼きや寿司などはあつという間に完売し、盛況のうちに閉会となった。
サンロード八幡商店街の北原清光会長は「高齢化の影響もあり、継続して活動していくことが大変になってきている。しかし、周りの方々に支えていただきながら、少しでも地域を元気にできるように活動を続けていきたい」と語った。サンロード八幡では、毎月15日に商店街の空き店舗を活用し「まちかどサロン」を開き、地域の人が気楽に立ち寄り、ゆっくりと話が出る場を提供している。

尾会 松音楽

心なごむひととき

秋の文化企画「松尾音楽会」が10月23日松尾小学校体育館で行われ約400人が集った。毎年2月に行われる文化祭の芸術発表会に参加していた小・中学校のクラブ等が集い、今年度松尾公民館文化委員会の新たな試みとして行われた。

プログラムの1番は緑ヶ丘中学校人形劇部みどり座の「大切な仲間」。次々に起こる事件や問題を解決して



かわいくきれいなハーモニーの松尾小合唱団

いく仲間たちを巧みな人形さばきで面白おかしく演じた。小さな人形がよく見えるように大型スクリーンで映し出す工夫も見られた。

次は松尾小学校金管バンドが「シンクロBOON-BAYE」など軽快なテンポの2曲を演奏、続いて合唱団が「おおシャンゼリゼ」

など4曲、きれいなハーモニーで観客を唸らせた。緑ヶ丘中学校合唱部は「Hail Holy Queen」など3曲を、トリは緑ヶ丘中学校吹奏楽部が「ゴッシー」「マイガール」など演奏した。3年生が引退して1・2年生だけの合唱や演奏となったが、観客の中に3年生が



リズムカルな音楽を奏でる緑中の吹奏楽

見ている前でも堂々とした発表ができた。最後には観客からアンコールの手拍子が起こり、プログラムにはなかった曲で応え会場がさらに盛り上がった。文化の秋を多くの人たちが人形劇と音楽で楽しみ、心なごむひとときとなった。

成人式実行委員会を 通してみる松尾

例年成人式該当者で作る『成人式実行委員会』が中心となり、1月の成人式を行っている。今年も7月に募ったところ、7人が集まり8月に発足した。中学校卒業以来久々に顔を合わせるメンバーがほとんどだが、幼い頃から知っている顔が集まれば、和気あいあいと話合いが進んでいく。

自分たちの住んでいる松尾を知ろうと、10月29日には天竜川でラフティング体験をした。普段なかなか感

じることのできない自然を肌で感じ、いつも見慣れていた松尾の景色を違った角度から見て、松尾の良さを見ている。

また中学校時代の担任と連絡を取り、12月にはビデオレターの撮影のため、県内各地を回った。それぞれ担任と会うのは久しぶりで照れくさかったが、少し大人びた生徒と会うのも先生は嬉しそうだったという。またスライドショーを作成するために、皆で小学校時代の

写真を持ち寄り、まだあどけない懐かしい顔に笑い、当時を思い出しながら作業を進めている。

勢の人に参加してもらって、成人式を迎えられることに感謝できるような式にした



誰が最初に川に落ちたかな？

運動会

2年連続の雨天中止

松尾地区市民運動会が雨天のため中止となった。

この日のために練習を重ねてきた区民や、準備を進めてきた実行委員にとっては、実に残念なことである。

練習の成果を発揮できなかった思いを補うかのように、運動会に代わる交流会としてパイン食い競争や独自のゲーム、焼き肉大会などが行われた地区もあった。



運動会に代わるゲームで盛り上がる（八幡町区）



雨が上って焼肉大会（代田区）

これも歴史のページ

体育委員長 森下廣一

昨年、残念ながら雨天中止となった松尾地区市民運動会を、今年はりベンジの思いで7月から着々と準備を進めてきました。昨年企画した新種目『ラッキーウオーター』と『人生いろいろ壮年会りレー』の内容を一部変更したのに加え、『役員りレー』に初めて小学生地区長を参加させるなど、世代間交流を踏まえた新たな試みもしてみました。松尾地区恒例の運動会練習にも顔を出させていただき、初秋の寒い中、各分館の分館長の指導の下、小学生地区長の子供たちが輪回しの練習を一生懸命している姿に、ほのぼのとした

たものを感じました。前日準備も完璧に整い、いよいよ本番を迎えるばかりになりました。結果は・・・やはり雨。しかもどしゃ降りです。引いたトラックのラインは雨に流されてしまいました。話によると2年連続中止は、過去の歴史の中でのこと。これも歴史の一つと言いかせながら平成28年度の市民運動会も幕を閉じました。

来年は、開催日の再検討をし、この2年間の悔しい思いを区民の皆さんと共に晴らしたいと思えます。そして来年こそは「元氣いっぱい」の松尾を発信しようではありませんか。

第2回 飯田市キンボール スポーツ交流大会

11月20日に飯田市キンボールスポーツ交流大会（松尾キンボールクラブ主催）が、鼎公民館で開催された。松尾地区からは上溝分館2チームと毛賀分館2チームが参加し、松尾地区まちづくり委員会と松尾公民館も後援した。

今回の大会には世界大会で優勝した選手も県外から来飯し、開会式で金メダルと銀メダルを披露。来場者を沸かせた。

試合はチャンピオン・フレンドリー・ジュニアの3部門に分けて行われ、予選での上位3チームがそれぞれの部門の決勝戦に進出した。

その結果、チャンピオンの部は「レ・ユニオン」が、ジュニアの部は「MK Cジュニア・ホップ」が、フレンドリーの部は接戦の末予選を勝ち抜いた「上溝分館・壮年会M a x」が決勝戦でも善戦し、見事優勝を果たした。各部門とも、



公民館の主な行事予定 （1月～3月）

- 〔1月〕
- 8日(日) 松尾地区成人式
- 29日(日) 分館対抗なはるバレー大会
- 〔2月〕
- 4日(土) 松尾地区文化祭
- 5日(日) 松尾地区文化祭

松尾図書館

(公民館2階)

開館日 水曜 午後1～5時
土曜 午前10～午後5時
日曜 午後1～5時

本のリクエストも受けつけています。

畑のお肉の料理教室

～こうや豆腐を使って～



11月13日 理教室 が行われ、20人が八幡町公会堂で分館主催の「畑のお肉の料理教室」に参加した。星野立成分館長の挨拶のあと、講師を務める旭松食品(株)販売企画課の林潤子さんに分かれて調理開始。

ツナマヨ風サンドイッチを調理中「おいしくできるかしら」

参加者は指導を受けながら、レシピを見てグループの人にも相談し、にぎやかな雰囲気の中で行った。最後に講師の矢澤さんから、こうや豆腐の栄養価・栄養成分などについて説明があり、「アイデア次第で色々な料理に使える、また電子レンジを使うと柔らかくおいしくできると話があり、料理教室を終了した。

久井区芸能祭

11月6日午後1時30分から久井集会所で、文化部主催の芸能祭が2年ぶりに開催された。

「大正琴クラブ」による「笑点」「お江戸日本橋」は7人の奏者の息もピッタリで、途中小話も挟んだ楽しい演奏となった。合唱クラブ『ドレミの会』8人による「夢をのせて」「峠のわが家」では、聞き覚えのある懐かしい曲に参加者は一緒に口ずさみながら耳を傾けた。高齢者の『いきいきクラブ』による合唱「朝はどこから」「いつでも夢を」は、歌うことに必死で手に持っていた鈴を鳴らすことを忘れるというハプニングがあったものの、会場全体で盛り上げた。

11月6日午後1時30分から久井集会所で、文化部主催の芸能祭が2年ぶりに開催された。久井オリジナルの音頭だが、最近では知らない人が増えていることもあり、参加者が知るよいきっかけとなった。松尾の『男踊り教室』に参加している男性による「武田節」はとても勇壮な舞踊で会場を魅了した。有志で結成された『中山プロダクション』による歌謡メドレーは今年で3回目になり、自前のペンライトを配りAKB48、長瀬剛、デュエットなど今回も大いに盛り上がった。『久盛芸能保存会』によるお囃子は、現在練習中の10曲の中の2曲を16人の会員が披露した。



歌うことは元気の源



体が減少しており、出演者探しに苦労している。今後皆様からご意見をいただきながら区の活性化のために努力したい」と語った。

11月27日城區集会所で昨年に引き続き、気象庁天候相談所元所長の土井雅彦氏を講師に招き、文化教養講座が区民20人の参加で行われた。

大地震に備えろ

文化教養講座



真剣に聴きいる城区民

「大地震に備えて 私たちの地域で起きる事」と題し、過去の日本の大地震について詳しく解説した。区民は松尾地区の地質や断層、過去の伊那谷の地震を知ったうえで今後30年以内起きうる南海トラフ地震への備えの必要性を改めて知る機会となった。

健康の集いでバス行楽

寺所区では、10月25日に健康の集いの日帰りのバス行楽を行い、13名が参加した。寺所区の健康の集いは地域のお年寄りを中心に区民の誰でも参加できる行事として実施しており、健康増進と地域の交流を目的としている。今回のバス行楽は春と秋の年2回予定しているうちの1回である。



日本一の広さの石庭をもつ興禅寺にて

木曾の紅葉を車窓から望みながらの寺廻り、木曾福島の御岳系赤褐色の温泉で美人湯として県外からも人気の「せせらぎの四季(とき)」で入浴と昼食をとってから、エメラルドグリーンと紅葉のコントラ

ストが素晴らしい「阿寺溪谷」を巡り、中津川名物の栗きんとんなどのお土産を「すや」にて購入した。

参加者から、興禅寺や定勝寺では、「初めて来たがまるで京都に来たかのようなお寺」や、せせらぎの四季では、「飯田とは全く違う温泉で料理もとても美味しくゆっくり楽しい時間を過ごせた」、阿寺溪谷では、「小雨が降ったが川霧が立ち込める中の紅葉が幻想的で素晴らしいかった」などの感想があった。福祉部長の中島信介さんは「外出する機会が少ないご年配の方にも興味を持っていただき、日常では味わえない楽しみや経験をしてもらいたいと思うので企画している」と語った。

長野県交通事故非常事態宣言発令

高齢者がかかわる交通事故が全国的に多発している。長野県も例外ではなく、交通事故非常事態宣言が発令された。

ヒヤリハットという言葉がある。検索すると、重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事例とある。

最近日は短くなり、朝まだ暗い時間や夜でも歩いている人をよく見かける。ライトや反射材を身につけている人もいるが、高齢者ほど身につけないで歩いている。それがヒヤリハットなのである。ライトや反射材を身につけていけば、気がつくが、身につけないで、しかも黒い服装で歩いている人はバイクや車からの発見が遅れる。ひとつ間違えると死亡事故につながる。ひかれる方もひいた方も最悪である。

また最近、ヘッドライトをハイビームにしていれば事故を防げたとの報告がニュースでも聞かれた。歩行者は明るい服装で反射材を身につけ、運転手もヘッドライトのハイビームを積極的に使い、常に無事故の心構えで交通事故のない松尾地区にしたい。

松尾地区で「ゾーン30」が始まります

自動車と歩行者が衝突した場合、自動車の速度が時速30キロを超えると、歩行者の致死率が急激に上昇します。そのため、この規制では、生活道路を走行する自動車の速度を時速30キロ以下に抑制することにしています。(30キロを超えて走行すると交通規制違反になります。)

「ゾーン30」とは

生活道路や通学路などの効果的な安全対策として、歩行者優先・通過交通の抑制を目的とした交通規制です。通常「線」による規制(例:A地点～B地点)であるのに対して、この規制は、区域(ゾーン)を指定する「面」による規制となります。ゾーンを定めて時速30キロの速度制限を実施することにより、歩行者がより安全に歩行することが出来、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制を図ることが出来ます。

各戸配布 9月26日11月

松尾地区内で「ゾーン30」が始まります

交通規制

ゾーン30

エリアMAP

地域をあげて 交通事故の抑制と歩行者の安全を守っていきましょう!